

難病対策

概要

難病対策の概要

難病対策については、昭和47年に定められた「難病対策要綱」を踏まえ各種の事業を推進している。



詳細データ

特定疾患治療受給者証交付件数

疾患名		実施年月	受給者証交付件数
1	ベーチェット病	昭和 47年 4月	16,926
2	多発性硬化症	昭和 48年 4月	12,658
3	重症筋無力症	昭和 47年 4月	15,625
4	全身性エリテマトーデス	〃	55,021
5	スモン	〃	1,851
6	再生不良性貧血	昭和 48年 4月	9,162
7	サルコイドーシス	昭和 49年 10月	18,586
8	筋萎縮性側索硬化症	〃	7,993
9	強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	〃	37,975
10	特発性血小板減少性紫斑病	〃	23,157
11	結節性動脈周囲炎	昭和 50年 10月	5,753
12	潰瘍性大腸炎	〃	96,993
13	大動脈炎症候群	〃	5,348
14	ピュルガー病	〃	7,950
15	天泡瘡	〃	4,085
16	脊髄小脳変性症	昭和 51年 10月	21,074
17	クローン病	〃	27,384
18	難治性肝炎のうち劇症肝炎	〃	262
19	悪性関節リウマチ	昭和 52年 10月	5,735
20	パーキンソン病関連疾患	〃	92,009
①	進行性核上性麻痺	平成 15年 10月	
②	大脳皮質基底核変性症	平成 15年 10月	
③	パーキンソン病	昭和 53年 10月	
21	アミロイドーシス	昭和 54年 10月	1,266
22	後縦靭帯骨化症	昭和 55年 12月	26,471
23	ハンチントン病	昭和 56年 10月	728
24	モヤモヤ病（ウイルス動脈輪閉塞症）	昭和 57年 10月	11,593
25	ウェゲナー肉芽腫症	昭和 59年 1月	1,371
26	特発性拡張型（うっ血型）心筋症	昭和 60年 1月	19,905
27	多系統萎縮症	〃	10,227
①	線条体黒質変性症	平成 15年 10月	
②	オリブ橋小脳萎縮症	昭和 51年 10月	
③	シャイ・ドレーガー症候群	昭和 61年 1月	
28	表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	昭和 62年 1月	333
29	膿疱性乾癬	昭和 63年 1月	1,538
30	広範脊柱管狭窄症	昭和 64年 1月	3,413
31	原発性胆汁性肝硬変	平成 2年 1月	15,204
32	重症急性膵炎	平成 3年 1月	1,139
33	特発性大腿骨頭壊死症	平成 4年 1月	12,257
34	混合性結合組織病	平成 5年 1月	8,288
35	原発性免疫不全症候群	平成 6年 1月	1,100
36	特発性間質性肺炎	平成 7年 1月	4,615
37	網膜色素変性症	平成 8年 1月	24,756
38	プリオン病	平成14年 6月統合	365
①	クロイツフェルト・ヤコブ病	平成 9年 1月	
②	ゲルストマン・ストロイスラー・シャインカー病	平成 14年 6月	
③	致死性家族性不眠症	平成 14年 6月	
39	原発性肺高血圧症	平成 10年 1月	1,023
40	神経線維腫症	平成 10年 5月	2,476
41	亜急性硬化性全脳炎	平成 10年 12月	94
42	バッド・キアリ症候群	〃	242
43	特発性慢性肺血栓栓症（肺高血圧型）	〃	890
44	ライソゾーム病	平成14年 6月統合	556
①	ファブリー病	平成 11年 4月	
②	ライソゾーム病	平成 13年 5月	
45	副腎白質ジストロフィー	平成 12年 4月	171
			合計615,568

資料：厚生労働省健康局調べ。

平成 20年 3月 31日現在